

研究課題

生き方を学び、生きる力を育む地域交流プロジェクト

副題

～直接交流とICTの相乗効果を生かして～

学校名

高梁市地域交流プロジェクト会議

所在地

〒719-2121
岡山県高梁市川面町2302-1 高梁市立高梁北中学校

ホームページ
アドレス

<http://edu-momo.net/takahashi/taka.html>

1. 研究の背景

中学生は自己の生き方について考え始める時期である。しかし、国際的に見て自分に自信がある子どもが少ないことや将来の生活に対して無気力であったり、不安を感じたりしている子どもが増えていることが指摘されている。

本プロジェクトは、地域と直接交流の授業を行う中でICTを活用し、その相乗効果を通して生き方を学び、生きる力を育む授業に取り組む。

高梁市には、サッカー女子最高峰「なでしこリーグ」に所属するFC吉備国際大学シャルム（以下、FCシャルム）がある。「シャルム」は「友愛」を意味し、逆境においてもたくましく戦い、アイデアを出せる選手を目標に掲げる。市内中学校で交流授業を行い、全国から高梁に集った選手たちの希望、勇気、信頼、強い意志を学ばせ、地域に感謝しながらプレーしている姿に気づかせる。

授業は、道徳の内容項目1(2)の「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」に関連付けて行う。

2. 研究の目的

地域との直接交流を行う中でICTを活用し、その相乗効果を通して生き方を学び、生きる力を育む。

3. 研究の方法

生き方を学び、生きる力を育む授業にICTをどう絡めるか。まず、FCシャルムの紹介ビデオの制作段階から、生徒に関わらせた。高梁中学校科学部は、平成24年度アジア国際子ども映画祭にビデオ出品し中四国地区最優秀賞を受賞している。交流授業の場だけでは伝わりにくい日常の厳しい練習や試合の様子、インタビュー等を中学生の視点から描かせ、このビデオを市内全中学校に配付し、さらにシャルムの選手との交流の様子をWebサイトでも発信する。

今回の交流授業は、高梁北中学校で実施した。今後さらに、交流授業を普及させるため、授業パッケージ（指導案、ワークシート等、DVDビデオ）を開発し、市内各中学校へも教材提供を行う。

4. 研究の内容・経過

(1) FCシャルムを取材・撮影（高梁中学校科学部）

ビデオの制作に当たっては、高梁中学校科学部生徒の主体性を生かしながら、当会議メンバーが指導助

言や渉外の役割を果たして進めた。

5月の練習風景の撮影では、専用グラウンドで40名余りの選手たちがハードな練習をこなし、撮影する側の生徒たちも国内のトップリーグで戦う厳しさを肌で感じる事ができた。また、7月の公式戦（なでしこリーグ）の撮影では、ピッチに立つ選手たちとスタンドの応援を通して、地域に根ざし、地域とつながりをもつ素晴らしさについて生徒は気づく事ができた。さらに、8月に生徒自らが行ったインタビュー（キャプテン、ユニバーシアード日本代表選手）では、事前に質問をしっかりと考え、当日は緊張しながらうまく収録する事ができた。

こうして、中学生が中学生の視点で取材・撮影したビデオは、他の中学校が交流授業を行う上で効果的な教材とすることができた。



高梁中学校生徒による撮影・取材



完成したDVD教材のトップ画面

(2) FCシャルムとの交流授業（高梁北中学校1年生）

実際の交流授業は、FCシャルムの2選手をお招きし、11月に高梁北中学校で次のとおり行った。

- | | |
|-------------|--|
| 1 対象 | 高梁市立高梁北中学校1年生 |
| 2 教科・領域 | 道徳 |
| 3 ゲスト・ティチャー | <ul style="list-style-type: none"> 西川選手(エースストライカー, 元 U-20 日本代表) 野間選手(大学院生, インターハイで優勝) |
| 4 関連する内容項目 | 1(2) 自己の目標, 希望, 努力する意欲, 最後までやり抜く大切さ |
| 5 ねらい | <ul style="list-style-type: none"> FCシャルムの選手たちとの交流を通し, 希望と勇気, チームメイトとの信頼をもとに, 国内女子最高峰の「なでしこリーグ」で戦い抜く強い意志を学ばせる。 全国からFCシャルム(高梁)に集った選手たちが地域に根ざし, 地域社会の支援やサポーターに感謝しながらプレーしていることに気づかせる。 |

FC吉備国際大学シャルムのチームプロフィール

Charme TEAM紹介

【シャルムのホームページから】
2000年に吉備国際大学女子サッカー部が創部され、2011年のチャレンジリーグ参戦を機に活動拠点である高梁市との地域密着型のクラブチームとしてスタートしました。2013年には念願のなでしこリーグ昇格しました。所属選手は吉備国際大学の大学生、大学院生で構成された学生チームです。チームカラーは黄色。愛称の「シャルム(Charme)」は、フランス語で「友愛」や「魅力的」を意味します。

【シャルムを取材して分かったこと】
＜選手の出身は？＞
北海道から鹿児島まで44名の選手が集まっています。どの選手も明るく、何事にも前向きで、サッカーと学業の両立を目指し、高梁で大学生活を送っています。そして地元との交流をとても大切にしています。

ワークシート 2

交流授業でのシート

1年()番 氏名()

【まずは、各自で質問を記入しましょう】

<何でも質問コーナー>
例 ・プロフィールシートに「○○○」とありますが、・・・はどうですか？
・(野間選手) 中学時代、男子サッカー部に入っていたことは？
・(西川選手) 日本代表の時、外圍はどこに行って試合したのですか？

<サッカーのこと、目標や努力についての質問>
例 ・なぜ、小さい頃から大学までサッカーを続けようと思ったのですか？
・長続きするような目標の作り方や努力の仕方って、コツありますか？

【グループで質問を絞り、直接聞いてみましょう】

<何でも質問コーナー>

<サッカーのこと、目標や努力についての質問>

【交流授業を終えて、感想を自由に書いてください】

授業で活用したワークシート(一部)

生徒たちは、前時に高梁中学校科学部が作成したDVDを視聴しており、興味・関心をもちながら、各自や各グループで聞きたいことをまとめ、選手には事前にもメールでお伝えしていた。

生徒は最初、緊張気味であったが、ワークシートを基に自分の言葉で直接、尋ねていった。部活動に入らず、専門的なスクールでテニスを習う生徒は、高い目標はもち続け、その目標を達成するためにはどうすればよいかを尋ねた。またある生徒は、勉強や部活動の目標はいつも立てているが、いつも達成できずに終わることから、どう取り組んでいけばよいかを尋ねていた。

二人の選手からは、「高い目標を達成するためには、まず、それにつながる小さな具体的な目標を作っていくこと」、「小さな目標から達成できたことを自信にしていけるか」など生徒にとって分かりやすい言葉で伝えてくれた。

交流授業の途中で、再度、高梁中学校科学部制作のビデオを視聴し、選手たちがいろいろなエピソードを伝えてくれた。サッカーでは国内トップレベルの技術・体力と強い精神力をもつ選手も、中学校時代に女子サッカー部がなく一人だけ男子サッカー部に入って苦労したことや、大学進学後も悩みや不安はありながらも、指導者やチームメイト、地域の力に支えられてきたお話も印象に残った。

交流授業後の生徒の感想の一部を以下にまとめた。



高梁北中学校での交流授業の様子

- 交流授業で夢に向かってあきらめないようにしたいコツや、努力し続けるコツを教えてもらって、今後の生活に生かしていきたいと思った。実際に自分たちの得意なことも見せていただき、さすがサッカー選手だなあと感動しました。
- 目標のない自分を考えたらどうなのかなって思った。やっぱり目標があるからこそ努力し続けることができると思った。
- 夢に向かって目標をもつこと。努力すること。自分自身長く続かないことばかりだったけど、本気で将来の夢を叶えようと思います。
- 二人ともシャルムの選手として目標を立ててそれに向かって進んでいて、私も夢に向かってがんばっていきたいと思います。お二人の話されていた努力するコツを実践してみたいです。
- 小さい目標を立て少しずつ夢に向かってがんばっていききたいです。やっぱり今からでも努力していかないとけないんだなと思った。自分の目標を立てることや将来の夢を持つのはいいことだと思った。
- 努力しつづけるコツや、目標を達成する仕方がわかってよかったです。それぞれ違う生き方や夢を持っているけど、目標や努力を作って生きていくことをしたいです。
- 選手がおもしろくて楽しかったです。技を披露するときダイビングヘッド？が床で打って痛そうでした。リフティングも上手で(当たり前だけど)すごいと思いました。

5. 研究の成果

(1) 直接交流の効果

交流授業を通して、道徳の内容項目1(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」授業を行うことができた。この授業を通して、子どもたちは自己の生き方を見つめ直すことができたと思う。道徳は日常生活への実践化が求められるが、今回の授業は部活動や勉強の目標にすぐに生かすことができる。また、選手たちが地域に支えられ、地域に感謝しながらプレーしている姿は、中学生にとって「地域」を見つめ直す機会となった。今後、生徒が地域で行う職場体験学習やボランティア活動などと併せ、子どもたちは地域とつながる必要性を理解することができた。

(2) ICTの効果と直接交流における相乗効果

事前に高梁中学校科学部が取材・撮影したビデオは、直接交流の授業で大変効果的であった。FCシャルムの選手の毎日の練習の厳しさや緊迫した公式試合の様子、また地元・高梁で楽しく生活する日常のブログ写真など、視覚的に事前の情報として収集できたことで、その後の交流授業で選手が話す言葉の一つ一つの伝わり方が違っていた。

またICTにより、直接交流の後も高梁北中学校 Web ページの中でこの授業の様子と選手への感謝を伝え、FCシャルムの Web サイトでも、地元の中学生と初めて交流し貢献できた喜びが記されていた。



FCシャルムのWebサイトより



交流授業パッケージ

さらにICTによって、今回の交流授業が単なるイベントで終わらない持続的な効果をもたせることができる。右上のDVDは、今回制作したビデオに加え、2時間分の指導案と授業で活用したワークシート4点をパッケージとしてまとめている。

学校にとって交流授業の効果は感じていても、その計画や準備が大変であることから、あまり実施されていないケースも考えられる。今回の成果を基に、市内の中学校に交流授業のパッケージを配付することで、交流授業のノウハウを伝え、効率的に実施することができ、今後、交流授業が広がっていくことにつながる。

最後に今回の授業の様子は、地方紙やケーブルテレビにも取り上げていただき、FCシャルムと地元中学生の交流の様子を伝えることで、地域への明るい話題提供の一つになったと考える。

6. 今後の課題・展望

今後も地域に題材を求めて、映像教材の制作を継続していきたい。その際に児童生徒の視点を加える上で、共同で制作していく過程を設けたい。そしてその後の直接交流の授業を取り入れることで相乗効果が得られた事例を集めていきたい。さらに、地域で学んだお礼として地域に返し、地域を活性化していくことにもつながってきたい。

7. おわりに

今回のプロジェクトを進めるに当たり、FCシャルムの監督、選手、事務局の方々や高梁中学校、高梁北中学校の先生方には、ご多忙中、ご協力をいただき大変ありがたかった。また、熱心に取材・撮影する生徒や、目を輝かせて交流授業に臨む生徒たちの様子は、一年間のプロジェクトを継続していく上で、勇気づけられるものであった。

今回のプロジェクトのねらいは、FCシャルムのチーム理念である「スポーツを通して、地域社会の健康と文化を育み、笑顔で活気ある街づくりに貢献します。そして、スポーツの力を信じて夢や希望を抱き、人々と感動を共有します」と重なるところが多く、自分自身も多くの感動を共有させていただくことができた。